



## ビッグウェーブグループ

長南 千鶴 さん

山形オートリサイクルセンター(株)

**地元最古参の名門事業者  
大型トラック部品の供給に自信**



▲大型トラックのリサイクル部品には自信のある同社 ▲長南千鶴フロントリーダー

山形県酒田市に本社を置く山形オートリサイクルセンター(株)(伊藤雄一郎社長)は昭和30年創業の老舗だ。ビッグウェーブグループの中でも創立当初からの重要メンバーで軽自動車から大型トラックまで幅広く取り扱う特異な店である。

### ◇珍しい女性の大型トラック部品フロント

今回登場したのはそういう歴史のある同社で大型トラック部品のフロントを担当している長南千鶴フロントリーダーである。父君が同社を創業した縁で、それまで勤めていたトヨタカローラ山形を結婚退社した折を捉えて、13年前に同社に帰り現在に至っている。

「対面営業の乗用車専門のディーラーでフロアレディを務めていたのですが、次は大型トラックのリサイクル部品の電話フロントに飛び込んできた格好になり、あまりの環境変化にはじめは毎日が緊張の連続でした」と笑う千鶴さんである。

大型トラックのリサイクル部品販売の難しさは説明の必要はないくらいのもの。「トラック部品のことはなにも知らずにいたのですが、両親の苦勞を横で見えていたので少しでも助けになればとこの道に入りました」ともいう。トヨタカローラ仕込みのお客さま扱いを学んだことも背景にあって、今では同社のフロント業務の貴重な要役を果たしている。

### ◇安定した部品の仕入れがビジネスの鍵

仕事の気使いのポイントを聞くと「自社品も含め仕入れのルートを常に安定させ、顧客の要望や傾向に合った商品を着実に納品すること」と応える。「お客さまの幸せが会社と社員の幸せ」という同社の理念に従って、現在取引している客筋の気風をすべて確実に握っているからそれが実現している。まさに同社のキーマンなのである。

夫は同社の専務を務めて、二人の子供に恵まれ、家庭の切り盛りも十分にこなす。「主人が息子のサッカーを面倒見ますので私は娘のテニスの送り迎えに忙しくしています」と会社では見せない優しい母親の一面も。趣味はカラオケと映画鑑賞。

職場 山形県酒田市広栄町2の226の2  
TEL 0234・31・2522

## エコライングループ

尾上 健一 氏

株式会社マックスカーパーツ

**売れ筋の高年式部品を効率生産  
現場から見た新しい発想で勝負**



▲部品在庫は一万一千点を確保している ▲尾上健一 部品流通センター長

神戸市北区に本社と解体工場を置く(株)マックスカーパーツ(佐々木健太郎社長)は兵庫県西宮市にも部品取り専門の部品流通センターを開設している。その流通センターの管理を担当しているのが今回キーマンとして登場願った尾上健一センター長(37歳)である。

### ◇8人で150台を部品取りとして処理

同社は平成12年に設立され、同センターには総員8人の担当者を配置し、全社300台のうち半数の150台を部品取り用に解体し、在庫は11000点を確保している。扱いは軽自動車、乗用車が中心だ。またセンターの周辺は商業地で顧客の来店も便利な立地で販売効率は悪くない。

こういった環境でセンターを切り盛りする尾上さんは「さらに生産の効率をどのように上げて、売れ筋の高年式車輛の部品取りをどう円滑に回るかを毎日検討しています。生産工程の運用を高度化するのがわたしの役目」という。

37歳の若さで二年前に重要拠点の責任者となったが、実は彼はこのリサイクル部品生産管理の道ですでに12年のキャリアがあるベテランである。事情があって卒学後入社した同社を途中二年ばかり他店に勤めたが、最近古巣の同社に帰ってきてさらに磨きのかかった腕を発揮している。

### ◇生産工程の合理化で業界常識を打破

「わたしの役割は『高年式部品は値段が高い』という業界常識の壁を、生産の合理化で売りやすい価格にまでどう持ち込むのかというものではないかと思っています。以前に比べてリサイクル部品ビジネスの環境は厳しいものがありますから」と鋭い見方だ。現場から見た新しい発想が生まれようとしている。

夫人と12歳と11歳の息子二人の四大家族である。アウトドアが趣味の尾上さん。愛車を駆って家族を伴いロングドライブを楽しむ。余暇でハンドルを握る間にも次の仕事の構想を思い浮かべるキーマンだ。

職場 兵庫県西宮市山口町阪神流通センター1の61  
TEL 078・907・1390

## SPNグループ

箕輪 充 氏

株式会社スリーアール長野

**SPNの実務者リーダーを自負  
クレームの原因は徹底究明めざす**



▲スリーアール長野の部品管理はここで行われている ▲箕輪充パーツセンター長

長野県の(株)スリーアール長野(鴨下直哉社長)のパーツセンター長である箕輪充氏(30歳)も目下SPNクラブの実務者リーダーとして活躍中である。

### ◇オートボックスで用品販売を経験

長野県内のオートボックスで6年間店内販売を経験して、平成19年に入社し、平成20年にセンター長になった。「自動車部品の知識とクルマ好きという点を買われて入社させていただきました。わたし個人の感覚としてこれからはリサイクル部品の時代ではないかと予感していたのですが、入社してみてさらにその思いは強くなりました」という。(株)スリーアール長野全社で総員59名の体制で、うち18名がパーツセンターの要員だ。

月間1200台を解体して現在部品の在庫量は14000点を保持している。

### ◇営業経験生かして部品生産を合理化

「パーツセンターでは当社が引き取った1200台全数をチェックして、そのうち部品取り車両300~400台を部品生産にまわします。1台から1点でも売れる部品を探し商品にするのがわたしの仕事です。一旦在庫させた以上は売れない部品を生産してしまうと結局不良在庫の量を増やすだけで手間賃を加算すると二重の無駄が発生します。売れるという自信のある部品だけを生産するように心がけています」と切り口は鋭い。

自信がある部品を生産することで後の工程も対応はし易くなる。「クレームが発生してもはじめての姿勢がそういうことですから落ち着いて対応できます。なぜクレームが発生したのか最後まで突き止めて、次にその部品が入った時に突き止めた原因をもとにテストを行い商品にします」と筋の通った考えだ。

「現場の1人1人が考えながら動いてくれている。その中でどうモチベーションを下げないように盛り上げていくかが目下の課題」ともしている。

職場 長野県小諸市和田552の2  
TEL 0267・26・0331